

フィーリックス

# 格安クラウド型POSを開発 端末の制限なく英語対応も計画

格安POSの開発・運営を行うフィーリックス（東京都千代田区）は、クラウドサービスを使った小売業・リユース業界向けPOSの開発を進めている。最大の特徴は、Android、iPhone、iPad、Mac、Windows全てで使用できること。これまでのリユース業界向けPOSは、パッケージ型でWindowsのみ使用できるのが主流のため、実用化された場合、業界向けPOSに新たな旋風を巻き起こす可能性を秘めている。

## Reuse × Tech

リユース×テクノロジー



同社がクラウド型POSの開発を進める背景には、既存製品であるリユース業界向けPOS「exPOS」が持つ課題がある。「exPOS」の導入には、顧客ごとのデータを取り取りし、データをやり取りし、PCへの導入作業を行う必要があり、導入作業時間はPC1台につき30分〜1

時間程。そのため、大型受注に対応し辛い側面があり、「た」と荻野利夫社長は話す。開発中のクラウド型POSの導入方法は、まず企業の住所や電話番号等の情報を入力し、管理アカウントを作成。更に店舗ごとの情報を入力すると、店舗アカウントが使用できる。アカウントは5分程度で作成可能。また、ユーザーが自分自身でアカウントを作った場合、POSの初期導入費用は0円。店舗アカウントを作った場合、1店舗あたり月額1万円程度の利用料金が発生する予定だ。「リユース

業界向けPOSで初期導入費用が無料のものはほぼなく、更に利用料も従来商品と比べるとかなり格安水準となります」（同社長）同POSではウェブベースの完全クラウド型POSでありながら、一部機能はオフラインでも使用が可能。例えばルーターが故障して一時的にオフラインとなっても、販売履歴機能は使用できる。更に、同POSでは日本語の他、英語にも対応する計画。また、海外の税率やレートに合わせた計算式等の構築も視野に入れる。これにより、導入する企業がグローバル展開した場合でも、同じPOS

が世界で使用できる。当面の課題は、膨大なデータを高速で利用できるシステムの構築だ。「軽く100万点を超える商品を扱うリユース業者の方もいらっしゃると思います。大量なデータを扱いつつ、いかにユーザーにストレスを与えないシステムを作り込めるかが鍵です」（同社長）同POSは年内の完成、来年3月頃の発表を予定。将来的には、同POSと連動したアプリ等の開発も視野に入れる。

般のお客様が売りたい商品やスマホで撮影し、査定依頼をするなど、クラウド型POSを導入する買取業者の方に写真が届け、見積りできるようなアプリの構築も考えています。大切なことは、お店とお客様とを簡単につなぐシステムを作ること。それを叶えるアイデアをどんどん実現していきたいと思っております」（同社長）

来年発売予定のクラウド型POSは、WindowsだけでなくAndroidやiPhone、iPad等でも使用できる

NEWS

## Sharing Economy

# 車中泊スポットをシェア 車旅による遊休地の活用目指す



ゲストは地図上から利用可能なスポットを検索、予約でき、宿泊後は評価が可能

Carstay（東京都新宿区）は1月30日、駐車場や空き地を宿泊スポットとしてシェアする「Carstay」を本格稼働した。同サービスは車中泊・テント泊が可能な場所を検索・予約・決済・評価するもので、このような場所を可視化したプラットフォームは日本初。ゲストは安心して宿泊地を利用でき、ホストは遊休地の活用、初期費用無しでのキャッシュレス対応ができる。ゲストは宿泊したい場所を検索し、予約決済。宿泊当日はゲスト自身でスポットに行き、スポット

に駐車した車両写真を投稿すればチェックインとなる。サイトは日本語と英語に対応し、海外からの予約も可能。車中泊・テント泊スポットを提供する「駐車場ホスト」の条件は、500m以内に使用できるトイレがあり、年に1日以上貸せるスペースの所有者。住所、写真、シェア可能日時、料金、設備等を記載し登録申請すると、約1週間で同社から登録の可否が送られる。承認後、同社から郵送された専用カラーコーンを設置すれば、貸出できる。スポット利用料金は1泊500円〜で、運営側への手数料は20〜40%。



専用のカラーコーンがスポットの目印

同サイトではこの他、「体験ホスト」による山登りや漁等の文化体験サービスも提供。運営側への手数料は約15%となる。同社は認知度向上に向け、地方自治体との共同イベント等を開催する。「日本各地にある、魅力的な観光スポットを知ることが出来るサービスにしていきたいですね」（広報担当 中川生馬氏）

「カーステイ」は、車中泊・テント泊スポットを提供する「駐車場ホスト」の条件は、500m以内に使用できるトイレがあり、年に1日以上貸せるスペースの所有者。住所、写真、シェア可能日時、料金、設備等を記載し登録申請すると、約1週間で同社から登録の可否が送られる。承認後、同社から郵送された専用カラーコーンを設置すれば、貸出できる。スポット利用料金は1泊500円〜で、運営側への手数料は20〜40%。

同社は2017年11月よりJR東日本の駅構内8カ所でecbobo ci oakを導入し、「多言語対応」「事前予約で並ばずに預け入れ可能」などの特徴により、利用者数を伸ばさせてきた実績を持つ。



駅周辺の活性化を図る

# 業界初の定額制セルフエステ プロ仕様のマシンを低価格で



完全個室内に全身鏡やコンセントを完備

業界初の定額制・通い放題の女性専用セルフエステサロン「じぶんdeエステ」を運営するのが博心（東京都港区）だ。昨年3月、東京・新宿に1号店をオープン。直後から20代前半〜30代前半女性を中心に人気を集め、インスタグラマーや美容意識の高い人々の間で話題となった。現在は7店舗を営業している。セルフエステとは、大手サロンや美容外科で使用される業務用マシンを自分で使うサービスのこと。「じぶんdeエステ」は個室内に機器が設置してあり、タブレット端末で使用方法を確認して利用する。室内にいながらスタッフとの会話も可能。サービス開始の背景にあるの

は、従来のエステサロンの価格の高さや、エステティシャンとのコミュニケーションが苦手だという声だ。体を見せることへの抵抗感を持つ人もいる。料金プランは4種類で、月額5980円から。予約不要で来店できる。現在、業界の市場規模は家庭用マシンが2500億円、エステサロンが3500億円と言われており、同社の古川美佐子社長は2つ合わせて1兆円への成長を見込む。「家庭用では物足りないが、エステに通い続けるのはお金がかかるという女性に訪れてほしい。3〜5年で500店舗の展開を目指したい」（同氏）。

完全個室内に全身鏡やコンセントを完備

セルフエステとは、大手サロンや美容外科で使用される業務用マシンを自分で使うサービスのこと。「じぶんdeエステ」は個室内に機器が設置してあり、タブレット端末で使用方法を確認して利用する。室内にいながらスタッフとの会話も可能。サービス開始の背景にあるの

セルフエステとは、大手サロンや美容外科で使用される業務用マシンを自分で使うサービスのこと。「じぶんdeエステ」は個室内に機器が設置してあり、タブレット端末で使用方法を確認して利用する。室内にいながらスタッフとの会話も可能。サービス開始の背景にあるの



渋谷モティ店の様子

## ecbobo

駅構内で荷物預かりサービス  
訪日外国人の観光を促進

ecbobo（東京都渋谷区）は、JR東日本スタートアップ（東京都新宿区）および東京モノレール（東京都港区）と協力し、東京モノレール浜松町駅構内の有休テナントで荷物の預かりサービス「ecbobo ci oak」の実証実験を行っている。期間は3月18日（月）から3月31日（日）。預かり可能時間は8時から20時。料金は荷物の大きさに関わらず一律800円。取り組みの背景にあるのは、沿線における荷物の預け場所不足。豊富な観光資源を持つ当エリアだが、訪日外国人の観光地周遊に制約が生じている。

# 業界最高値 角石・ルース

# オークション